ネットの情報は信用できるか

ソーシャルメディアなどを通じて、様々な情報を目にするようになりました。個人が手軽に情報発信できるようになった今、情報の質は多種多様です。そのため利用者自らが情報を精査する姿勢が求められています。

一郎、昨日変なことをつぶやいていたよね。

どのつぶやきのことかな？

世紀の大ニュース「円周率は4だった。」なんてこと…。

あぁ、そのことか。大ニュースだろ。

それって、本当のことなのか？

他の人もリプライしていたし、URLも書かれていたので、確かだと思うよ。

ニュースソースを確認していないのか？

（ちょっと待って）ニュースソースの短縮URLを確認してみる。ほら、ニュースサイトだよ。間違いない。

（画面をのぞき込んで）これって「架空新聞」じゃないか。ニュースをまねたジョークサイトじゃないか。

え？これって本当のことじゃないの？

もちろんジョークだろうな。

え、大変だ、昨日のつぶやきを消さなきゃ。

もう拡散しているから無理だろうな。笑っている人もいるかもな。

どうしよう。「ごめんなさい」ってつぶやけばいいかな。

ニュースソースを確認しなかったから、こんなことになるんだよ。

有名な新聞社やテレビ局のサイトのニュースなら確かだったのかな。

ネットの情報の信頼性は、一つのサイトだけでは分からないよ。新聞社だって、その会社の方針に従って、事実を編集している部分があるはずだからね。Wikipediaとかは誰でも編集できることから、個人的な考えが多く含まれているので、真実には近い内容もあるけれど、真実ではない情報も訂正されずに含まれていることがある。

では、本当のことってどこにあるの？

いくつかのサイトや文献を比較したり、複数のメディアを検索したりすることが必要だよね。でも、それだけでは、真実かどうかはわからないけれどね。

信頼できる情報源って、どこにあるんだろう？

ネットの情報は信用できるか

ウェブによる情報発信は、個人でも手軽にできるため、発信される情報の質は多種多様です。出版物であれば校閲が入りますが、ウェブでは不十分な場合も多く見られます。また、ジョークサイトやデマ情報をわざと掲載しているサイトもあります。信頼できる情報を得るためには、閲覧者自身で、内容の信憑性を主体的に判断する態度が必要です。さらに、ウェブの情報は、公開後にウェブの所有者が勝手に変更したり、削除したりすることもできます。書籍からの引用であれば、その文献を調べれば、引用や参照の真偽を確認できます。しかし、ウェブページからの引用や参照に関しては、その出所をたどって調べようとしても、将来も同じ場所（URL）にあるとは限りません。また、デジタル情報であるがゆえに改変されてもその違いを判断することは困難です。ウェブページの情報を引用する場合は、サイト名、ページ名、URL、作成者名あるいは管理者名、作成日（確認できる場合）、閲覧日を明記することが必要です。後で確認できるように、印刷しておくか、ファイルとして保存しておくとよいでしょう。

ウェブページの情報を利用する場合は、特にオリジナルの情報（一次情報）を探すこと重要です。デジタル情報は改変が容易であるがゆえに、一次情報を編集して掲載した情報（二次情報）では変容してしまっている場合があります。ましてや孫引きされた情報では、その真偽は定かではありません。そのため次のようなことを意識的に確認し、複数の情報源（内容により海外のサイトを含む）やメディアにより内容を照らし合わせて比較・検証（クロスチェック）することが大切です。

1. **情報の発信者が信頼できるか（組織、所属、プロフィール、連絡先等）**
2. **ドメイン名が妥当であるか（なりすましサイトではないか）**
3. **最新の情報であるか**

レポートや論文作成の資料収集の手始めとして、ウェブ上のフリー百科事典「ウィキペディア（Wikipedia）」を使うことがあるかもしれません。手軽に利用でき、概略を知るにはとても便利ですが、誰でも記事を投稿でき、常に記事を改変できるシステムを採用しているため、学術論文やレポートの引用元として適切ではありません。そのため信頼できるサイトを調べることが必要になります。簡単な用語などを調べるには、ウェブ上の辞書で構いませんが、専門用語に関しては、きちんと専門分野の書籍や辞書を調べること、先行研究などは、国立情報学研究所のCiniiや海外の論文サイトを検索することがおすすめです。最初はわかりにくいかもしれませんが、確かな情報を得るためには必要なことです。